

1.日時 令和4年11月25日(金) 15:00-17:00

2.場所 大阪府立桃谷高等学校 会議室

3.出席(委員)

梅田和子委員(会長)、大西啓嗣委員(副会長)、篠崎静夫委員、筋原章博委員、中谷朋世委員  
(長谷かおる委員は欠席)

4.主な内容

- ・各課程による令和4年度学校経営計画の進捗状況の説明
- ・各課程(定時制の課程 Ⅰ・Ⅱ部を除く)によるスクールミッション案の説明
- ・令和5年度 教科用図書採択について

5.説明・協議

[定時制の課程 Ⅲ部]

説明

○R4年10月時点→1年次35名、2年次16名

在籍生徒数計51名の内、23名が外国籍で大阪府内でもトップクラスの多さ。

○令和4年度 前期 授業アンケートについて

各項目の平均の値が3.67という数値が出ており、昨年度より0.7ポイント上がっている。

→教員が、授業に対して日々創意工夫を行っているために、生徒からの満足度が高くなっている。

観点別評価の効果

全体として「5」の評価が上昇している。

年度当初より、生徒に評価基準を明示しているため、生徒が自身の頑張りの方向性が認識でき、教員の求める方向性とのズレがなくなったことにより、良い評価につながっている。

○「キャリア教育」および「進路指導の充実」について

かめカフェの利用状況

利用者は延べ458人(昨年度は200)→生徒の居場所としてなりつつある。

SSW、SC、自立支援アドバイザー等の外部人材の利用と進路の状況

キャリアカウンセラー→卒業予定の生徒に対しての就職指導をしていたが、今年度より卒業予定生以外にも面談等を実施。(入学当初から進路に意識を向けるため)

就職 →残り1名、活動継続中(3社目の受験予定)。

その他 →どのタイミングで卒業してもいいように、コネクションズ大阪や技専校などの紹介を継続。

○部活動の状況について

- ・サッカー同好会→部に昇格
  - ・卓球部 →近畿大会に出場
  - ・バドミントン部 →団体メンバーとして全国大会に出場した生徒がいる
- その他様々な部活動が活躍している。

○人権推進委員会

- ・教員研修「やさしい日本語の活用」
- 文章をやさしい日本語に書き換える方法と注意点。今後とも生野区役所との連携強化を図り、また地域との連携に繋げたい。

○会議について

- ・会議の平均時間→60分未満に収まっている
- ・運営委員会の回数を減らしたいが要検討

○スクールミッション「学び継続の場」「学び直しの場」

生涯学習コースの設置や外部人材との連携、多様な学校行事を行っており、これらの活動などを踏まえスクールミッションを策定。

協議

質問: 観点別評価について、どのように基準を示しているのか、また統一している基準はあるのか？

回答: 授業のはじめに具体的な評価方法を示し、また活動中にも評価基準を示して、授業展開を行っている。  
考査の中で「知識・理解」と「思考・判断・表現」をA・B・Cで評価する形です。また、考査以外では、「主体的に学びに向かう態度」をA・B・Cで評価し、3観点の評価の組み合わせから評定をつけています。

質問: 進路状況の人数が多いのか少ないのかわからない。また、生徒がクラブへ入部するための取組等はしているのか。

回答: 進路について生涯学習コースの方は家業への従事がほとんどであるため、母数は少なくなってしまう。  
クラブの勧誘などは顧問が直接声をかける、生徒が声をかけるなどの場合があるが、学校に通うことで精いっぱいの子供も多く、それぞれの状況に応じて声をかけている。

質問:スクールミッションは最終的には入学前の生徒も見ていくことになるが、「安定した納税者を生み出し、大阪府に貢献する」という一文はどうか。

回答:「安定した納税者を生み出し、大阪府に貢献する」は行政に向けた文言であるが、この文言は消してよいとも思っている。しかし、本校が社会に貢献したい、しているということをこの文言で表現した。アドミッションポリシーのように入学前の生徒を主たる対象にするなら削除、そうでなければ残すという方針で事務局に問い合わせの上、対応する。

質問:スクールミッションはアドミッションポリシーとは別のものなのか？

回答:スクールポリシーには、アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・グラディエーションポリシーの3つがあり、それらを統合したものがスクールミッションです。  
現在のアドミッションポリシーを含めた上で、再考することになるのではないか。

#### [通信制の課程]

##### 説明

##### ○学校経営計画進捗

##### ・分掌会議の活性化

木曜日の職員会議前の時間で行っていた分掌会議の順番を変更して、職員会議の後に分掌会議を行うこととした。→分掌の機能を高める目的

##### ・レポート期限と試験期間の分離

レポート→考査という流れが本来であるが、個別対応を続けた結果、いつしか順序があいまいになっていたものを、今年度から本来の形になるようすすめた。また、レポート期限の日に「質問day」を設けて、生徒がレポート学習において分からない部分を明確にしてから、テストに備えるという流れを作ることができている。

##### ・働き方改革の取り組み

将来構想検討チームが行った業務アンケートを受けて、これまで平均60～90分という時間がかかっていた職員会議の時間を短縮しようと、Gmailのチャット機能を用いることにし、簡単な業務連絡や情報共有を行えるようにした。

##### ・人権教育、研修の充実

6月、有志の教員で水平社博物館を見学したことをはじめとして、合同ホームルームにおけるハンセン病についての学習、フリージャーナリスト西谷さんによる講演会、図書館にSDGs関連の書籍をおくことなどに取り組み、教職員も生徒も人権について触れる機会を増やしている。

##### ・ICTを活用した連絡体制の整備

Googleクラスルームを活用して教科・クラスでの連絡体制を整備した。これまでの連絡体制と新しい連絡体制が混在してしまっていることが課題。

・校内研修について

初任者や本校に転任してきたばかりの教員を対象に木曜日に開催。外部人材を招いたり、本校教員による講演等を実施。

・研究スクーリングプロジェクトチームの活動

観点別評価の意見交換会、中学校教員対象の学校説明会等の様々なチャレンジを通して教員の成長につなげている。

・生徒の活躍

書道部→定時制通信制生徒秋季発表大会 知事賞 受賞

卓球部→近畿定時制通信制高校 男子団体 三位 入賞

○スクールミッション・スクールポリシーの設定

スクールミッション

「府内では唯一の通信制課程を持つ高等学校として、学習する意欲があるにもかかわらず、全日制や定時制では学ぶことが困難な事情がある方に、学習の機会を保障する。」

「自分で学習の計画を立て、意欲的に学ぶ姿勢を身につけるとともに、社会とつながる力を持った生徒を育てる。」と設定

スクールポリシー

「中学校卒業後、長期間学習から遠ざかっている方や、入学した高等学校を事情により卒業できなかった方も含め、年齢や学力を問わず、互いを尊重し、交流を深めながら学習を積み重ねていくこと。」「単位制でもあり、学年等にとらわれず、幅広い年代の方々が体調や仕事、家庭の事情等にあわせてゆっくり学習することができる。」と設定。

協議

質問:文科省が「高等学校通信教育の質の確保向上のためのガイドライン」というのを示しているが、通信制教育の方向性について校長の考えを聞かせてほしい。

回答:一部の私学の通信制高校における不適切な単位認定の方法が問題となってガイドラインが作られたと理解している。しっかりとした教育計画を立てそれをオープンにすることや、生徒にとってわかりやすいシステムの構築をめざしたい。

質問:一人一台端末という点において、活用の現状や課題

回答:教科やクラスでの連絡やスクーリング等の教育活動については生徒のスマホを使っているのが現状で、配付された端末の活用は進んでいない。ICT先進校を見学するなど、端末の使い方を検討していきたい。

質問:通信制の就職支援の制度について

回答:就職希望者が7年前に比べると3倍近く増加している。進路指導部主導で担任と協力して、就職の指導をしている。

質問:一人一台端末の運用を進めていくことの通信制ならではの難しさについて

回答:毎日学校に通わないという部分がネックとなっている。生徒がいつ来るかわからないという状況で配付した端末をどう回収するのかという問題が大きくある。

#### [定時制の課程 I・II部]

##### 説明

○現状 10月29日に前期の卒業式を実施、卒業生は13名  
在校生は残り67名

##### ○中期的目標

- 1.「1年半後の閉部を見据え、生徒・保護者・地域等の思いに応えるべく教育活動の一層の充実」
  - ・保護者との連携について…保護者懇談(前期)75.3%、家庭訪問16件
  - ・教員力・学校力向上のための教員研修の実施(共に肯定率100%)
    - 人権研修:コリアタウンでのフィールドワーク
    - 支援教育での研修:SSWによるヤングケアラーについての講演
  - ・働き方改革による勤務時間の縮減…45時間以上の時間外勤務者が通算2名  
テレワークの申請受理件数231回  
会議時間は平成31年度と比較し半分以下になっている。
- 2.「生徒の現状をふまえた「学びのシステム」及び進路指導体制の充実」
  - ・進路説明会…年3回、第3回目は職業体験ガイダンス、30名の参加  
第3回参加者肯定率93.3%  
(資料には97.8%と記載しているが、これは1・2回目の平均値)  
3回の平均値は96%(昨年度より1.6ポイント上昇)
- 3.「生徒の自尊心を育み社会性の向上を図る取り組み及び人権教育の一層の充実」
  - ・第二回人権HR「コリアタウンでのフィールドワーク」…12月に実施予定
  - ・支援検討会議…1回の実施  
SSWとのケース会議は9月時点で6回中4回実施
  - ・社会性育成のための取り組みとしての学校行事
    - …「校外学習」(肯定率93%)  
10/13に中之島にてフィールドワーク、近代建築の学習。参加人数18名
    - 「文化祭」(肯定率100%)  
今年度、前後半に分けて実施。前半は芸術鑑賞、後半は文化祭を実施

○生徒会による要望の実現  
・昼休みに体育館の開放を実施

○令和5年度使用教科書の採択一覧表について  
新課程はなく、旧課程のものだけ採択

### 協議

質問:閉部が令和5年度の9月という時期に決まったのか。

回答:秋に入学した生徒の在籍期間を4年間保障しなければならない。3月に閉部してしまうと、3年半の在籍になる生徒が出てくる。そのため、9月末の閉部が決まった。

質問:閉部後にまだ卒業できてない生徒はどうなるか。また、現在連絡が取れない生徒に対し、その生徒と保護者に対しどのような形で閉部や在籍が示されるのか。

回答:現在連絡が取れない生徒が10名ほどいる。そのような生徒に対しては、担任の先生から、手紙を送ったり、電話したり、家庭訪問を実施している。家庭訪問を行い、最後まで諦めずに生徒の指導をしていく。本校が閉部した時に、卒業ができなかった生徒には一定の手続きのもと、他校での学習保障がなされる。

質問:学校行事の工夫がされている点がすごく良いので、他の部と合同でやってもよいかと思う。来年度、生徒数の減少で行事の実施が困難になるかと思うが、どのように実施していくかなどの考えはあるか。

回答:現段階でできることを、教員一同知恵を絞って考えている。仮に来年度、登校する生徒が1名でもきっちりと実施していきたい。

### [連絡]

第3回学校運営協議会は2月1日水曜日、15時より会議室で実施予定。  
1月中旬には改めて事前資料の送付と案内予定